

令和5年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる教育を推進する」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める	今年度の 重点目標	「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協同の学びで自他を高める教育の推進】コースに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】クラウドブック等を活用した効率的な学習環境整備を進める
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 自立を促す 教育の推進 形成能力を	○生徒一人当たりの取得資格数 A1.7件以上 B1.5件以上 C1.2件以上 D1.0件以上 E1.0件未満 ○就職内定率(県内)、進学合格率(県内) ○自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境と答えた生徒・教員の割合 ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒・保護者の割合 ○生徒の生活状況や学習状況等について保護者と連携していると答えた保護者の割合	○資格検定は概ね予定通り実施 合格率63.5%(R4) 一人あたり平均取得資格数1.62件(R4) ○高度な資格検定にも挑戦し取得者増(スーパー農林水産業士、アグリマイスター、ラナ、電気工事士等) ○就職内定率(3月)100% 県内84.6% 進学合格率(3月)100% 県内56.4% ○インターンシップ・企業等見学は予定通り実施 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導 生徒 H30 78.1%→79.3%→82.5%→85.5%→R4 84.4% ○掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒 H30 62.8%→62.8%→68%→60%→R4 64.6% 教員 H30 45.8%→52.7%→50.9%→58.4%→R4 62% ○服装や身だしなみが整う 生徒 H30 90.4%→92%→90.6%→84.4%→R4 81.8% 保護者 H30 59.3%→67%→67.3%→61.6%→R4 58.4% ○Googleクラスルーム・マチコメール等を活用し連絡徹底 ○保護者と連携 保護者 84%(R4)	○高度な資格検定に挑戦する生徒の増加 ○生徒一人当たりの取得資格数 1.7件以上 ○就職内定率 100%、進学合格率 100% ○インターンシップや企業・上級学校見学等を通してふるさとで働き学ぶ意識を高める ○進路学習活動を通して勤労観・職業観を高め、自らのキャリアを設計する基礎を育てる ○ともに学ぶ喜びと「学ぶ責任」の意識を高め、適切な学習環境を自らつくる ○規律ある学校生活を通して「見られる自分」を意識し、規範意識・社会の一員としての自覚を高める ○保護者や地域との連携を推進すること で、生徒とともに育てる体制を整える ○部活動の振興を図ることで心身の健全な育成を目指し、学校生活を豊かで充実したものにする	○ICT等活用した指導や補習、再受検指導で合格率向上を目指す ○上位資格取得に向け早期の指導体制を確立 ○インターンシップ、企業・上級学校見学は実状に合った実施を目指し実施時期・内容等検討 ○進路学習プログラム、キャリア・パスポート等活用した計画的・系統的な進路LHRを実施 ○適性検査等により要支援生徒を把握し個別支援体制を構築、校内で情報共有 ○教室は可燃ゴミ箱のみ設置しゴミの減量化に努める ○授業開始時など日常的に全職員で規律を呼び掛け、保護者連絡を密にし一層の協力・信頼関係を構築 ○Googleクラスルーム・マチコメールの有効活用 ○生徒会活動や部活動、ボランティア等生徒が主体的に取組めるよう支援			
2 協同の学びで 自他を高める 教育の推進	○地域と連携して学校外の教育力を積極的に取り込んでいると答えた教職員の割合 ○湖陵フェスタ来場者アンケートで鳥取湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合 ○人権や命を大切にすることを育てる教育が行われていると答えた生徒の割合 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 ○「鳥取湖陵チャンネル」の視聴状況	○湖陵フェスタは縮小開催(来場約500名) ○地域交流事業はほぼ予定通り実施、報道で紹介してもらうなど学校PRに繋がる ○地域と連携、学校外教育力活用 教員 H30 79.6%→90.9%→80.3%→92.3%→R4 94% ○人権教育講演会は生徒の能動的な参加が見られ生徒アンケートも高評価 ○人権や命を大切にする教育実践 生徒 H30 73.1%→79%→79.9%→92.3%→R4 81.7% ○2年QUアンケート代替「湖陵版よりよい学校生活のためのアンケート」はSCと分析し生徒面談等に繋げる ○個別の教育支援計画作成の研修会を初開催し職員間で書き方等を共有 ○新規製作した学校紹介DVDやホームページ等を活用し積極的に学校情報を発信 ○「鳥取湖陵チャンネル」の視聴状況は微増	○学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す ○近隣学校や地域に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで、生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする ○地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる ○障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む ○特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う	○湖陵フェスタは来場者が参加しやすく、より楽しめる体験など実施内容等を検討 ○本校の教育資源を活用し地域との交流事業を継続・推進、新規連携先の開拓等も検討 ○保護者が学校行事に参加しやすいよう工夫(PTA総会・湖陵フェスタ時に講演会開催等) ○クラスの実情に即した人権教育LHRに取り組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを実践 ○ケタイマナー安全使用講習会等SNS関連の使用ルールやマナーについて継続的に学習・指導 ○QUアンケート結果等を踏まえた適切な対応、外部機関との連携、教室環境の工夫等推進 ○生徒の教育相談室利用ルールを明確化し運用 ○学校紹介DVDを製作し中学校説明会等で活用 ○「鳥取湖陵チャンネル」(YouTube)や学校ホームページ、Instagram等の活用による積極的な情報発信を継続			
3 学びを創造する 力を高める 教育の推進	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 ○基礎力診断テストの結果が入学時より向上する生徒の割合 ○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 ○タブレット型端末を使うことで授業に関心をもち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 ○タブレット型端末の活用状況調査結果	○校内公開授業実践は32回(2/3時点) ○授業がわかりやすいように先生が工夫 生徒 H30 69.6%→73.2%→80.7%→79.2%→R4 81.3% ○授業改善に向け日々取り組む 教員 H30 71.2%→81.8%→82.2%→84.6%→R4 90% ○基礎学力定着対策として朝トレや教科連携授業、授業動画配信等を実践 ○基礎力診断テストを年2回から3回に変更 4月より8月に向上した生徒割合 1年43.6%(R3 51%) 2年72.1%(R3 75%) 3年69.4%(R3 62%) ○家庭学習ほぼ毎日 生徒 H30 24.6%→25.9%→31.3%→30.2%→R4 38.6% ○観点別学習状況評価は概ね順調に運用 ○Google研修会(KickstartProgram)、ICT活用公開授業研究会等で職員のスキルアップ ○校内Wi-Fi(アクセスポイント)等Chromebook・iPadの学習環境を整備 ○「1年のChromebookは全教科で活用 ○端末で授業に関心、主体的取組 生徒 H30 67.7%→69.7%→69.2%→68.4%→R4 69.7%	○実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する ○ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける ○BYAD「一人一台端末」を有効に活用し、効率的な学習環境を実現する ○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く ○専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す	○校内公開授業実践・授業参観を継続実施 ○基礎学力の定着・学び直し対策として朝学習・放課後等の学習会を継続 ○基礎力診断テスト等校外模試の実施と活用 ○教科担任連絡会を適宜開催し授業状況等を職員間で共有 ○観点別学習状況評価の研究・改善を進め、適正な運用を目指す ○本校ICT活用ポリシーに則した利用方法で、一人一台端末の有効活用を推進 ○生徒の興味関心・意欲を引き出せる効果的なICT活用教材を全教科で研究 ○ICT活用研修会、ICT活用授業アドバイザー招へい事業等で授業力向上を図る ○教職員のタブレット端末の日常的な活用の推進(共用タブレット型端末貸出簿の管理等) ○GoogleWorkspaceによる課題配信等で家庭学習時間の確保につなげる ○専門教科と共通教科の授業連携を継続実施			
4 の業務改善	○時間外業務時間数(教職員月平均) H30 18.0→14.1→11.5→11.1→R4 13.6時間 ○年休取得平均 14.5日(目標15日) ○部活動の精選等は継続検討 ○学事システムの日々入力導入で業務負担減 ○職員チャットの積極的活用で連絡等の効率アップ	○時間外業務時間月平均を昨年度以下とする ○適切な業務改善を継続	○無理のない行事計画(成績締切・会議等)を継続的に検討 ○年休等が取得しやすい環境づくりの推進 ○部活動の精選を中・長期的に検討 ○学事システムによる業務の効率化を推進 ○教職員連絡の端末配信の効率化を推進				

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] 60%程度 [40%程度] [30%程度]